
透明、しげみ。

はらかわクウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

透明、しげみ。

【Nコード】

N1945A

【作者名】

はらかわクウ

【あらすじ】

髪の毛が透明な女の子、「しげみ」。何故か頭皮は見えない。実はしげみは透明の神様で、何でも透明にできるといふ。そんなしげみが普通の高校へ……！しげみと皆の学校生活。

一話・・・入学式！しげみ！

キンコンカンコン

という音がそこらを響かせる。葉が微かに動いたのが見えた。葉に包まれ、だいぶ黒くなった学校。

『えゝゝゝ、第三十二回入学式を始める。』

と、台の上に立ってマイクで話すおじいさんの姿。その前には大勢の中年達。

『——これで第三十二回、入学式を終わります。では、楽しい日々を送ってください。』

【1—D】

「はゝい。はじめまして、斎藤春、さいとうはるです。年齢は、えへへ！30より上かな！」

【1—D】の担任、加奈は自分の自己紹介を笑顔で言った。

「じゃあ、皆も自己紹介して！」

春はこの列から、と言い、列一番前の人を立たせた。そして謎の透明髪の毛の女子の番。

くがたつゝと言う音と共に皆が一人の女子を注目した。

「やつぽゝゝ『しげみ』だよ！名字はないんだゝゝ。だから、しげみって読んで！えつと、身長は・・・141cmくらいかな・・・」

。透明の神様で、髪の毛が透明なの！でも頭皮は見えないから安心して！あと、16歳！・・・ああ！！肝心な事言い忘れたよう！！えとね、私、『透明の神様』で、何でも透明にしてあげる！その代わりポツキー2箱！」

謎の少女、しげみは言い終わってからくかたんゝと座った。もちろん、皆は呆然。信じるはずはない。

「ふう……。やっと休み時間が終わったよ。皆、以外に物分り悪いなあ。神様だつて言ってるのに。」

しげみは疲れているらしく、声に元気がなかった。

その時、<こつこつ……。>と音を立てながら春がやってきた。

「さ、これから席替えを始めます。男女に分かれて並んで。」

春は2個に分れてるくじの束をもちながら言った。

<がたがた……。>といすから立ち上がる音。

皆はもたもたと並んでいると、

「はやくしなさいい！！！」

と春が言った。が、怒ってるわけでもなさそうだ。だが、それは初日だから気を使っているのだろ。だが皆はそれを本気にとつてしまったらしく、早足で並ぶ。

「はい、まずは男子から。順番に引いてって」

男子が順番にくじの束からくじを一本づつ引いていく。

「……。はい、次は女子」

今度は女子が順番にくじを引いていった。

そして、全員が引き終わった。すると、

「春先生！くじってなんですか？ポツキーみたいなかたちだけど・……。う？？」

と言うしげみ。そう、神様の世界にはくじなんてなかったのだ。

「あ……。あは……。しげみちゃん。くじとは、え……。つと……。なんて説明すればいいの！！？？」

「まあ、わかりました。皆の流れにそればいいんだよね！」

というとしげみはおとなしくじを眺めていた。

「あ〜ん……」

「しげみちゃん！……食べ物じゃないの〜！……！」

しげみはくぱくつゝとくじを口に入れてしまった。

皆はけらけら笑っていた。

「・・・う??これ、食べちゃダメなの?」

しげみは皆が笑ったので一応口からくじを出した。

「ま、まあ、じゃ、この順番に座って!!」

春は黒板に番号が並んだ紙を貼った。

無事、席替えは終わった。しげみの隣は、

「わーい、長野くん、よろしくね!」

「・・・永沢^{ながさわ}・・・翔。」

微妙にヤンキー入っている翔だった。

「あはは!どっちでもいいよう!」

「ふざけんな!くそが!」

そこまで話すとしげみがくびたつ>と止まった。

(くそ・・・??くそ・・・って??)

「『くそ』ってなあに?」

「くそってのはなあ!!・・・。。。」

「ねえ?・・・う?もしかして長野くんもわからない?」

しげみは言いながら翔を覗き込んだ。

「な・が・さ・わ!!!!」

翔は少し頬を赤くして言った。それに気付いたしげみは、

「う?頭いたいのか?」

と言って、しげみは自分の小さな手を翔のおでこに当てた。翔は少し怒った。

「ふざけんなっつ!!」

と怒鳴った。しげみはびっくり。クラスの皆もびっくり。もちろん、春もだ。

でもさらに頬が赤くなった。

どうなることやら。

< 続 >

一話・・・入学式！しげみ！（後書き）

本当にこれ、『どうなる事やら』ですよね？翔はしげみの事どう思
ってるんでしょう？

二話・・・隣の席の人の頼み！しげみ！（前書き）

自己紹介！しげみ！

・主人公 しげみ 16歳
髪の毛が透明！でも、頭皮は見えない！透明の神様！

・永沢 翔 ?歳
現在しげみの隣の席。微妙にヤンキー入っている・・・どうなる
事やら！？

二話・・・隣の席の人の頼み！しげみ！

<キンコンカンコン>

「はい。今日の授業はココまで！じゃ、この列から直だから、だれだっけ？」

と、忘れる春。

「鈴木と・・・、」

「佐々野原です・・・。」

言い終わったら皆が笑い出した。

「では、さようなら！また明日！」

学校が終わり、しげみは自分の家に着いた。

「・・・ふう。こっちの学校はこんなに簡単なんだ。たのしいっ！」

と独り言を言うしげみ。そしてお風呂に入り、ご飯を食べ、歯磨きをして、さっさと寝てしまった。

「むにゃ・・・」

「うん・・・」

朝。太陽がもうほぼ真上。真上...

「って、ああああ！！！」

そう、昼なのだ。しげみはボサボサで透明の紙髪の毛を手ぐしで整える。

「行つて来ますうゝ！」

がしゃ とドアが閉まる音より先にしげみはその場を離れていた。

「うきゃゝん！もう十二時だよ！」

教室のドアの目の前にしげみ。

くガラツゝという音がした。もちろん、しげみは皆の注目の的になった。

「…しげみちゃん！？」

春はドアの前ではにかんで笑うしげみの近くに行った。

「遅刻？」

春は普通に問いかけた。

「…う？『遅刻』って何？」

だが春の問いかけに答えは返らず、逆に春がしげみからの問いかけに答えることになった。

「『遅刻』っていうのは、学校に遅れてくること」

「ああ、そつか！うん、遅刻だよ」

しげみが言つたその時だった。皆大笑いした。

「まあいいわ…。席に着きなさい」

「はい！」

「なあ、しげみい…」

しげみの隣から小さな声が聞こえた。

「うん？永沢くん何い？」

しげみが笑顔で除きこんだ。翔の顔が赤になる。

「あ！あの、さ、」

「う？」

しげみが更に翔の顔に近付く。

「あのさ、ポツキー持って来たから春を透明に…して」

「う？何で？」

しげみは自分の机に伏せ、上目使いで翔を凝視する。翔は、う／＼と照れながら、でもしげみを見つめた。今度はしげみが照れてはにかんで笑った。

…しげみの髪の毛ふわふわの綿みたい…

「うん…。。じゃ、ポツキー2箱じゃなくて3箱！」

「うん、わかった。」

「ふえええ、やっと授業終わったよ。家に帰ろうつと」

「ただいま」

しげみは真っ先に手を洗い、ポツキーを棚から取り、くぼりぼりと音を立てながら次々と口へと運ぶ。

「へつくしようん！」

しげみがポツキーを飲み込んだ瞬間、くしゃみがでた。

誰か私の噂してるのかな？

今日も同じように、お風呂に入り、ご飯を食べ、歯を磨いて寝る。

< 続く >

三話・・・モデル体験！しげみ！（前書き）

自己紹介！しげみ！

・主人公 しげみ 16歳
髪の毛が透明！でも、頭皮は見えない！透明の神様！

・永沢 翔 ?歳
現在しげみの隣の席。微妙にヤンキー入っている・・・どうなる
事やら！？

三話・・・モデル体験！しげみ！

いつものように、朝が来て、学校に行く。

「はい、今回はディベートしたいと思います！」

春は朝っぱらから元気いっぱいだ。

皆は嬉しがっている。しげみ以外。

「ねね、永沢くん」

「あ？」

「『でいべーと』って何??」

それからしばらく会話が続き、しげみはわからなかった言葉を理解した様子。

「そっかあ、わかった。」

そのとき、

「じゃ、男と女、どっちが得か！」

春は話し合う内容を決めた。

「男の子が得って思う人はこっち。女の子が得って思う人はこっち」
教室の両端を指差した。

「さ、動く動く！」

くがたがたん・・・>といううるさい音を立てながら皆は移動した。

しげみは・・・

なんと男の子を選んだ。もちろん、その他の女子は女の子の方。男
子は男の子の方。

はうい、しげみが手を挙げ、どうぞ、と言われた。

「あの、男の子は男の子だから！」

なうんて意味のわからない台詞。もちろん皆は大笑い。その中でただ一人、翔は頭の中で、可愛い、などと思っていた。

——つて、・・・・・・・・え？・・・・可愛い？

放課後。

しげみはくてくく>と帰り道を歩く。

その時、

「ちよつと君い」

いきなり太い声の男性に止められた。

「何い？」

< 続
<
>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1945a/>

透明、しげみ。

2010年10月8日14時30分発行